

■柴田鳩翁 心学者。諸藩主から庶民まで支持され、講義録「鳩翁道話」は心学道話の白眉と称される。

しばたきゆうおう

蘭学階梯・1783= 京都生れ。代々江戸飛脚の本番宰領を務めた奈良物屋吉兵衛玄証の子。

田沼意次失脚1786= 3歳：

・・・・・・1788= 5歳：天明の大火に罹災，

その後は家計が苦しく，市内の商家に奉公したが永続せず，

ヲクスマン来日・1792= 9歳：

松平定信引退1793=10歳：

古事記伝・1798=15歳：父を失い，

ついで母も病没。

宣長没・・・1801=18歳：

職を求めて，一時は江戸に下るなど，辛酸をなめた。

ワヅ船狼藉・1807=24歳：帰洛し，塗師となったが，

・・・・・・1810=27歳：

ゴロブツ拿捕 1811=29歳：この頃，_軍書講談に思わぬ名声を博し，それを本業ともしたが，

_「都鄙問答」を読み，薩唾徳軒を知って，心学修業に努め，

水野忠成老中1818=35歳：

群書類従完結1819=36歳：

伊能図完成・1821=38歳：_断書(印可状)を受けるにいたる。

_その後，参禅悟得するところあり，

異国船打払令1825=42歳：*講談稼業を廃して心学教化に献身することを誓い，師徳軒の代講として丹後国舞鶴近郷を巡講，

日本外史・・・1827=44歳：_失明するが，

シボク事件・1828=45歳：

_以後，連年各地に下向。京都を中心に丹波・丹後・越前・近江・伊賀・伊勢・大和・和泉・摂津・播磨・美作など12か国に巡講，話術は極めて巧妙，「孟子」「中庸」などによって心学の奥義を平易に講説。本来百姓・町人を対象としながらも，堂上公家や京都所司代・町奉行，越前国大野・福井，美作国津山，伊勢国津等の諸藩主・武士にまで求められて講義。

天保大飢饉始1833=50歳：*以降，天保飢饉には長期にわたって施粥。

晩年，_修正舎を再興して，

大塩平八郎乱1837=54歳：

蚕社の獄・・・1839=56歳：_没した。

講義録「鳩翁道話」は心学道話の白眉とされる。